魚之代定　鹽にても無鹽にても可爲隨意○略中

一いはし　貳ッ　代壹文○略中

庚申二月廿三日　國府津之船主村野宗右衞門

〔有德院殿御實紀附錄十七〕三浦の代官日野小左衞門正晴齋藤喜六郎直房に命せられ、うるめ鰯をめして御膳に供へられし事も有しとなり、

〔塵塚談下〕鰯魚予○小川顯道、享保頃人、若年の頃は夥しく取れしと見へて、每日鰯魚多く來れり、四五十年以前より、いはし賣邂逅來る也、五十年以前迄は、相州三浦三崎、安房國邊には、大網といふありけり、紀州邊の大商人、獵船數艘こしらへ、船はたらきの者數百人召抱置、鰯を取て油にゑぼり、干鰯にして諸國へうり出し、鰯拂底に成しゆへに取續がたく、皆々大網をゑまひ、家居諸道具等までうり拂ひ、國々へ歸り大網斷絕なり、

〔鶉衣前篇拾遺〕百魚譜

鰯といふものゝ味ひ、ことにすぐれたれども、崑山のもとに玉の礫にするとか、多きが故にいやしまる、たとへ骸は田畠のこやしとなるとも、頭は門を守りて天下の鬼を防ぐ、其功鰐鯨も及ぶべからず、

〔新撰字鏡〕魯鮥盧各反、乃志呂、己。　鰶、鯛、魴、鰲、鮗、鰍、六字、乃志呂、己、

〔倭名類聚抄十九龍魚〕鯛　四聲字苑云、鰶子例反、字亦作鯛、和名古乃之呂、魚名似鯖而薄、細鱗者也、

〔類聚名義抄十魚〕鰶コノシロ　鱈コノシロ　鯛同　鰶コノシロ、魚子

〔伊呂波字類抄古動物〕鰶コノシロ、亦作鯛、

〔下學集上氣形〕鮗コノシロ　鰶コノシロ

〔璣囊抄一〕魚類字　鰶コノシロ

鯛